

第2回 標準委員会 発電炉部会
統計的安全評価手法標準分科会 P9SC2
議事録

日時 2006年2月28日(火) 13:30～17:30

場所 東京電力 本館3階C会議室

出席者 三島委員、山口委員、江畑委員、大澤委員、影山委員、笠井委員、鈴木委員、
丹羽委員、古川委員、堀田委員、松浦委員、松本委員、谷本委員、本谷委員、
森田委員、山本委員、綿田委員

常時出席者 藤井(関西電力)、溝上(東京電力)、渡辺(東京電力)、小野(東芝)、村田(日立)、坂場(MHI)、金子(GNF-J)、鈴木(原燃工)、池田(テブシス)

他 傍聴者
(敬称略)

配布資料

第2回 統計的安全評価手法標準分科会(P9SC2) 議事次第

P9SC2-1 : メンバーリスト

P9SC2-2 : 統計的安全評価手法分科会の進め方について

P9SC2-3 : CSAU手法の具体例と標準策的へ向けたポイント

議事及び主な質疑応答

(1) 主査及び副主査による幹事の指名

幹事について、永田委員の退任に伴い、主査及び副主査により笠井委員が指名された。

また、分科会委員について、丸山委員の退任に伴う谷本委員の選任が了承された。

(2) 議事次第の決定

笠井幹事より、議事次第に基づいて議事内容が説明された。

また、笠井幹事より、P9SC2-2「統計的安全評価手法分科会の進め方について」について、今後は毎回分科会進捗の確認のために同資料を用意することについて説明された。

(3) 統計的安全評価手法の具体例の紹介

第1回分科会において今後の分科会の進め方の議論に関し、「第2回分科会でCSAU手法の各ステップについて具体例がわかる内容の説明をすることになった」ことに対して、常時参加者の坂場氏より、P9SC2-3「CSAU手法の具体例と標準策的へ向けたポイント」に基づいて説明された。

ここでは、欧州における統計的安全評価手法の整備状況として、UMAE法、AEAT法、GRS法の概要が、続いて、米国NRCによるPWR/大LOCAへのCSAU法適用の具体例として、NUREG/CR-5249 Part Bが紹介された。

標準の適用範囲としては、商用軽水炉(BWR・PWR)の過渡事象・事故が適用範囲となり、原理的には高速炉等で使用することも可能ではあるが、運転経験の蓄積が不十分であること、解析する最適評価コードも十分に確立されているとは言えないこと等から、現段階では高速炉等に統計的安全評価手法を適用するのは困難ではないか等の議論があった。

今後の予定としては、次回は、標準の記載内容等の検討を行い、欧州手法の詳細報告等を第4回分科会で検討・審議していく。

(4) その他

笠井幹事より、P9SC2-2により次回、次々回を4月中旬及び6月上旬に予定したい旨の説明があった。

以上